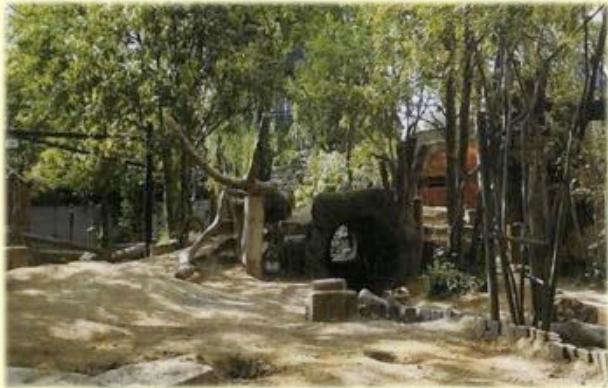
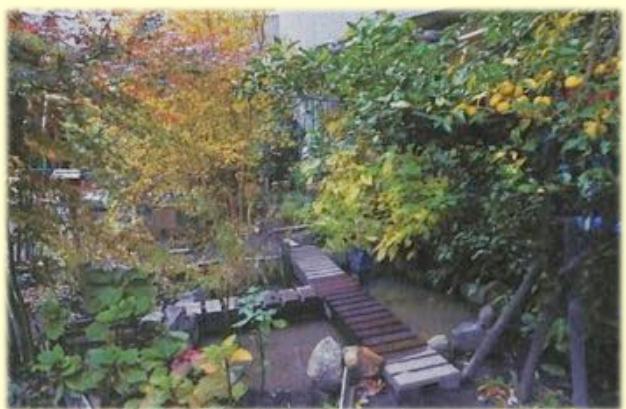


子どもの経験をより豊かに 園庭の質向上のためのひと工夫へのいざない



東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター
園庭調査研究グループ

はじめに

本リーフレット作成のねらい～環境を通した教育の充実のために～
園庭は、乳幼児期の子どもたちの育ちにとって必要な、様々な経験を支える環境です

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターでは、2017年春に、全国1740園からの回答のご協力を得て、日本で初めて全国の園庭の実態等についての大規模質問紙調査を実施いたしました。そしてその調査結果をより広く多くの園の実践に活用できる形でお知らせすることができるようと考え、本リーフレットを作成しました。

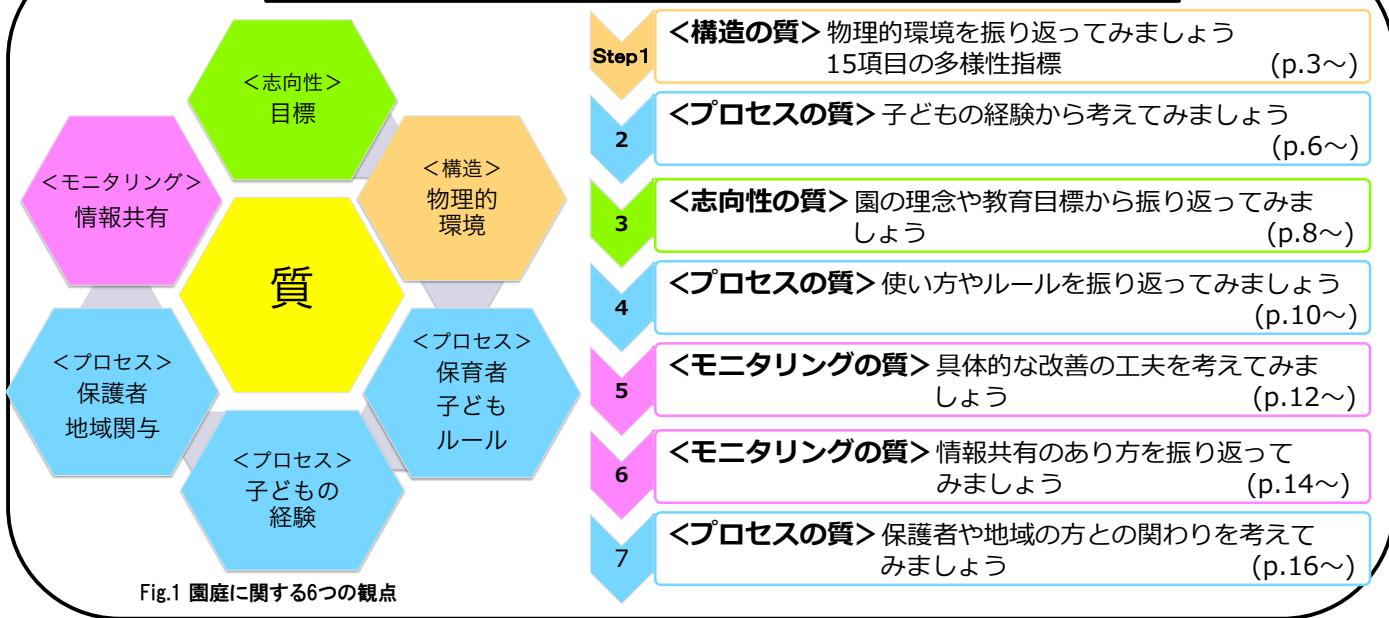
本紙は、園庭での子どもたちの経験の質を、以下に紹介する観点や指標から振り返っていただくためのツールブックとして作成したものです。園庭の広さや有無、立地、樹木や大型遊具等、教育課程や全体的な計画、保育者の関わり等が、子どもたちの経験に及ぼす影響が大きいのは言うまでありません。しかし、狭い園や近隣の代替地使用の園も含め、「うちの園らしい保育」をするための園庭するために「もうひと工夫をしてみよう」という職員の皆様の知恵で、子どもの戸外での遊びや生活の経験を、さらに多様で深まりのある豊かなものにできるのではないかと考えます。そして、調査に御回答いただいた園の結果や事例を共有し参考にしていただくことが、その始めの一歩になればと願っております。

園庭の工夫や改造は保育室以上に、園長や主任のリーダーシップのもとで、園職員全員での対話や協力が必要です。園庭への価値づけや意味の共有を行うことによってはじめて、園庭の振り返りは可能となります。長期的な展望と計画を持って行うことも必要になります。だからこそ、園組織の一体感と手ごたえを生む契機にもなります。その園、その地域ならではの四季折々の自然や地形、地域文化を活用した教育・保育が、子どもたちの現在と未来にとって必要な、健やかな身体と心を育みます。これらの経験は、子どもたちにとって、生涯にわたる乳幼児期の園生活の原風景となるでしょう。そのための一助として、このブックレットが研修等に活用されるならば、作成者一同、うれしく思います。

2018年1月

秋田喜代美・辻谷真知子・石田佳織・宮田まり子・宮本雄太

園庭の質向上のための6観点7ステップのツールガイド



次頁から、7つのステップに沿って順にみてみましょう。
またどの頁からでも、ご関心のある所から使うこともできます。

より詳しく知りたい方は、CedepHP報告発表スライド資料
(http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/project_report/symposiumseminar/sympo_170806/)や、東京大学大学院教育学研究科紀要57巻(2018年3月発刊)で国内の園庭研究動向や海外の園庭指針等を含め、結果の一部をより詳しくご覧いただけます。

2 本紙掲載写真は、ご了解を得て使用しております。なお、本紙の無断複写転載は、著作権上禁止されています。

Step 1 物理的環境を振り返ってみましょう

1

どのような園庭環境が求められているのでしょうか？ 園庭環境多様性指標をもとに考えてみませんか？

園庭の物理的環境については、面積の規定はありますが、環境構成についての規定はありません。ただ、文部科学省『幼稚園施設整備指針』では、望ましい園庭環境が挙げられています。この『幼稚園施設整備指針』にもとづいて、園庭の物理的環境を振り返るスケールとして15項目からなる「園庭環境多様性指標」を作成しました。また、調査協力園での環境構成の工夫も参考にさせて頂きました。



調査からこのような傾向がみられました

物理的環境が
多様な園

- ・園庭環境は「子どもの活動にとって充分」や「満足」「まあ満足」と回答。
- ・取り組みに関する自由記述では、物的環境に関する単語の種類が多く、具体的。
- ・子どもの経験が多様(Step2参照)。

園庭環境多様性指標 15項目

<自然と触れ合い楽しむことができる環境>

- 1) 土や砂遊び場
- 2) 水遊び場
- 3) 菜園や花壇
- 4) 芝生地や雑草地
- 5) 樹木やつる性植物
- 6) 飼育動物

<体を使って楽しむことができる環境>

- 7) 築山や斜面
- 8) 遊具
- 9) ひらけたスペース

<自由に発想し工夫ができる環境>

- 10) 道具や素材

<休憩や穏やかな活動ができる環境>

- 11) 休憩や穏やかな活動の場所

<園庭全体の活動を支えるための環境>

- 12) 日陰
- 13) 園庭と園舎のつながり
- 14) 全体的な配置

<保護者や地域の方と交流できる環境>

- 15) 保護者や地域の方との交流の場所

子どもの経験をより豊かにするために、多様な環境にしていきたいですね。



あなたの園庭には、どのような物理的環境がありますか？
□にチェックを入れてみましょう

自然と触れ合い楽しむことができる環境

1. 土や砂遊び場

- 特定の場所はないが、園庭の土や砂を自由に取ったり掘ることができる
- 土遊び場として特定の場所が設けてある
- 砂遊び場として特定の場所が設けてある
- 砂・土遊び場のそばに摘んでも良い草花がある
- 様々な生き物が棲む豊かな土の場所がある



山砂がたっぷり盛られた砂遊び場



井戸水ガチャポンプや水路と合わせて

2. 水遊び場

- 水を使って遊びたい場所のそばに水場がある、もしくは道具を用いて水を運ぶことができる
- 水路や池がある
 - 子どもが入って遊ぶことができる
 - 生き物が暮らしやすい環境になっている
 - 雨水タンクがある
 - 水たまりを残している



水辺ビオトープで生き物観察



雨水も大切な遊び環境

3. 菜園や花壇

- 菜園は園庭内にはないが、近隣にある
- プランターで菜園活動を行っている
- 園庭内に菜園がある
 - 菜園は子どもがよく活動する場所にあり、目に付きやすい
- プランターで花の栽培活動を行っている
- 園庭内に花壇がある
 - 花壇は子どもがよく活動する場所にあり、目に付きやすい



子どもがお世話



目に触れる保育室前で

4. 芝生地や雑草地

- 芝生地がある
- 雑草地を意識しては設けていないが、隅などに部分的に残っている
- 雑草地を設けている



低い姿勢で楽しめる柔らかな緑の地面



一角に残された雑草地

自然と触れ合い楽しむことができる環境

5. 樹木やつる性植物

- 中高木がある
- 子どもの背丈で楽しめる高さの低木やかん木がある
- 様々な葉、花、実がある
- 果樹がある
- 一年を通して景色や香りの変化がある
- ロープランコやツリーハウスなど樹木を活用した遊び場がある
- 落ち葉を残している
- 夏場の日よけや温度調整としてグリーンカーテンを設けている
- フェンスや柵を利用して、つる植物などで緑化したり遊び場を設けている



落ち葉は格好の遊び素材



夏にひんやり、つる植物のおうち



様々な高さ、色どりの植物が植えられている



ツリーハウスで高木を楽しむ

6. 飼育動物

- 動物を飼育している
- 広さや草花があるなど、その生き物が暮らしやすい環境となっている



獣医師や保健所と連携し、ボニーとミニブタと暮らす



調査協力園ではこのような動物を育てています

5割の園がうさぎを、3割の園がカメを育てています。その他、小鳥、にわとり、ちやほ、アヒル、ガチョウ、カモ、やぎ、ねずみ類、犬、猫も。



園庭全体で多様な植栽が計画されている

植物は、子どもたちに遊びや木陰を提供してくれます。右の園のように様々な種類の植物があるといいですね。



調査協力園ではこのような樹種が植えられています

【中高木】

7割の園がさくらを、3-4割の園がドングリのなる木、いちょう、かえで類、つばき類を植えています。その他、かんきつ類、かき、もくせい類、ふじ、はなみずき、けやき、うめ、さるすべり、びわ、くすのき、ちくわん類、やまもも、かいづかいぶき、くわ、くり、まつ、りんご、いちじく、ぶどう、ざくろ、やなぎも。

【低木、かん木(ブッシュ)】

6割前後の園が紫陽花、ツツジを植えています。その他、きんかん、ブルーベリー、どうだんつじ、ゆきやなぎ、はぎ、れんげよう、むくげ、ゆすらうめ、ラズベリー、にしきぎも。

体を使って楽しむことができる環境

7. 築山や斜面

- 築山や斜面がある
- 急な部分や緩やかな部分など、様々な傾斜がある
- トンネルやロープ、樹木、草花など他要素と組み合わされ、多様な体験ができる場となっている



小さな山でも色々な活動が生まれる



ひらけたスペースだからこそ活動も

9. ひらけたスペース

- ひらけたスペースがある
- 子どもの活動内容に適した広さがある

8. 遊具

- 固定遊具がある
 - 様々な体の動きを体験でき
 - 挑戦できたり、達成感を感じることができる
 - 見立てて遊ぶことができる
 - それぞれの年齢に応じた遊びができる
 - 工夫して遊ぶことができる
 - ごっこ遊びや追いかけっこなど社会的遊びに利用できるつくりになっている
- 可動遊具や組立遊具がある
 - 子どもの活動に合わせて移動や変形させている



登ったりぶら下がったり様々な体の動きが体験できるように



固定遊具と竹を組み合わせた遊び場を保育者が作成中(保護者参加予定)



保育者や保護者、子どもたちが手作りしたり、竹や木材など地域資源を活かした環境づくりもあるんだね。



園庭には代々の子どもたちが作った遊具が

自由に発想し工夫ができる環境

10. 道具や素材

- 遊びに使うことができる道具や素材がある
- 様々な種類の道具や素材がある
- 子どもが自由に発想し組み合わせられるだけの数量がある
- 子どもが出し入れやすい場所に置いている

調査協力園ではこのような道具や素材が用意されています

8割の園がバケツやタライ、ショベルを、3~4割の園がブルーシートやござ、タイヤ、枝を遊びに活用しています。その他、ダンボール、雨どいや竹筒、板、ロープ、瓶ケース、スノコ、布、金づちやノコギりも。

すり鉢、すりこぎ、ろうと、ザルが素材遊びを一層楽ししく



瓶ケースや三角コーンも遊びに



一輪車やリアカーも遊び道具



1

休憩や穏やかな活動ができる環境

11. 休憩や穏やかな活動のためのスペース

- ベンチやテーブル、デッキなど、休憩したり穏やかな活動をする場所がある
- 園庭全体に点在している



ハンモックで休み



木の下のデッキ

年齢の小さな子どもの環境も考えてみましょう

- 特別なスペースは設けていないが、使用時間を分けて利用している
- 低年齢児用のスペースを設けている
- 低年齢児専用園庭がある
- 幼児用、低年齢児用園庭をお互いに行き来し交流ができる
- 砂場、芝生、草花、低木、椅子やテーブル、低年齢児用遊具など、ゆったりと低い位置で楽しめる環境がある



園庭全体の活動を支えるための環境

12. 日陰

- 樹木やパラソル、テント、日よけシートなどを用いて、日陰を設けている
- 日陰が園庭周辺部にある
- 中央に数ヶ所日陰がある
- 園庭全体に日陰が点在している



日よけシートや木陰で夏も快適



ひらけたスペース中心で周縁部に遊具や樹木がある園庭だけでなく、園庭全体に様々な活動スペースが設けられた園庭も増えています。

13. 園庭と園舎のつながり

- 通路や靴の着脱のための外廊下がある
- 園庭と園舎の間に、子どもが活動できるデッキや外廊下、テラスがある
- 各室内から園庭に直接出ることができる

14. 全体的な配置

- ひらけたスペースが中心で、周縁部にその他の活動スペースがある
- 園庭全体に様々な活動スペースが点在している
- 園庭全体を回遊できるように、スペース間のつながりを考えている



(上)くつろぐ場所、移動して楽しむ場所、遊具など、つながりが工夫されている



(上)(右)中央に築山や樹木+台、その周りに様々なスペースが設けられている



保護者や地域の方と交流できる環境

15. 保護者や地域の方との交流の場所

- ベンチやデッキなど、保護者や地域の方が交流できる場所がある
- 植栽などによりくつろぐ空間となっている
- 子育て支援室や談話室など室内と連続した空間づくりをしている



併設する高齢者施設の方と季節感ある園庭で交流

他にも、調査協力園ではこのような環境が工夫されています

火

焚き火、炉、かまど



隠れられる場所

適度な隠れ場所を整備、秘密基地作りができる



雪を活かす

雪を盛ってソリ滑り、そのまま残して雪遊び、雪中運動会



屋根のある場所

ピロティ(2F以上の建物の1Fを吹き放ちにした部分)、園庭一周できる屋根付き廊下



その他

シャワー、鳥の餌台、乗り物のための道、イルミネーションや夜間照明、夏場のドライミスト

- ・子どもの経験を支える環境は? → Step2へ
- ・どう活用する? → Step3へ
- ・保育、教育のねらいから考えよう → Step4へ

Step2 子どもの経験から考えてみましょう

園庭にはどのような機能があるでしょうか？

子どもが選んだ好きな遊び場と好きな理由

園の4,5歳児196名に聞いてみました

- a. 「僕しか知らない隠れ家だから」



- b. 「坂は鬼が来ないから」



- c. 「いろんなことができるから」



- d. 「年長がやっているから」



- e. 「年少さんとかいない時に、立ち乗りするから」



- f. 「できるかどうか試してみる」



- i. 「そこにあるて色々なことができるから」



- a) 隠れて遊べる場
- b) 過去の経験と関係がある場
- c) 多様性、選択可能性がある場
- d) 他児から影響がもたらされる場
- e) 幼児なりのルールや決まりが生まれる場
- f) 挑戦ができる場
- g) 待ち合わせができる場
- h) 願いや望みが生まれる場
- i) 常にある場
- j) めまい(回転の揺れや落下のスピード感など)を感じる場
- k) 高低差がある場

- g. 「他のクラスのみんなが来るから」



- h. 「本当の忍者に会えたらすごいなって思って」



- j. 「ビューンって早いから」



- k. 「眺めがいいから」



子どもたちが好きな場所にはこのような機能があるのか。自園の子どもたちが好きな場所はどうだろう？

子どもはこのような視点で遊び場を捉えています

【木登り】を捉える
子どもの姿



【木登り】を捉える子どもの視点

【滑り台】を捉える
子どもの姿



【滑り台】を捉える子どもの視点

【橋】を捉える子どもの視点



【橋】を捉える子どもの視点

子どもの姿
【橋】を捉える

子どもの姿
【坂】を捉える



【坂】を捉える子どもの視点



子どもはこのような視点で遊び場を見ているのね

子どもに写真を撮ってもらい、それを園内研修などに活用することもできます。

子どもの視点から園庭の機能を考えてみると、子どもの能動的なかかわりを保障すると共に、子どもが生み出す園庭の機能を理解し、育んでいくことにつながります。

あなたの園庭には、以下の機能を持つ場がいくつありますか？

2

下の項目に思いつく場所をできるだけ挙げてみましょう

子どもの活動として見られる場はどこですか？

- 1-1) 子どもたちが隠れて遊べる場
_____ (_____)
- 1-2) 一息つくことができる場
_____ (_____)
- 1-3) 繰り返し同じような遊びができる場
_____ (_____)
- 1-4) 色々な発想を形にできる場
_____ (_____)
- 1-5) 他の子どもの遊びを見ることができる場
_____ (_____)
- 1-6) 子どもなりの決まりやルールが生じる場
_____ (_____)
- 1-7) 子ども(たち)が自分(たち)の目標に向かって挑戦することができる場
_____ (_____)
- 1-8) 友だちと待ち合わせをしたり、自然と集まったりする場
_____ (_____)
- 1-9) 想像を膨らませることのできる場
_____ (_____)
- 1-10) 五感を働かせる場
_____ (_____)

園として保持している場はどこですか？

- 2-1) 敷地の地形(坂や起伏)を生かした場
_____ (_____)
- 2-2) 常にそこにある(固定遊具や定位置にある)場
_____ (_____)
- 2-3) スピード感や揺れる感覚を味わえる場
_____ (_____)
- 2-4) 高低差を体感できる場
_____ (_____)
- 2-5) 遮蔽物がない、開けた場
_____ (_____)
- 2-6) 隠れ家的な遮蔽された場
_____ (_____)
- 2-7) 回遊性がある(一巡できる行き止まりのない繰り返しが楽しめる)場
_____ (_____)

回答例：

- 1-1) 隠れて遊べる場
(トンネル)(生垣)(築山)
- 2-4) 高低差を意識できる場
(滑り台)(プランコ)(雲梯)
など

取り組みやすい方法を自分たちで探しながら取り組んでみましょう！



例えば、この園のように、園庭の図面に付箋を貼って、普段の子どもの遊びに向かう姿や保育者が行っている環境設定の実態を知り、深めてみるのも一つです。



園の物理的環境の多様性に関しては
→Step 1へ

調査協力園では、それぞれの機能を持つ遊び場の平均数は以下の通りです

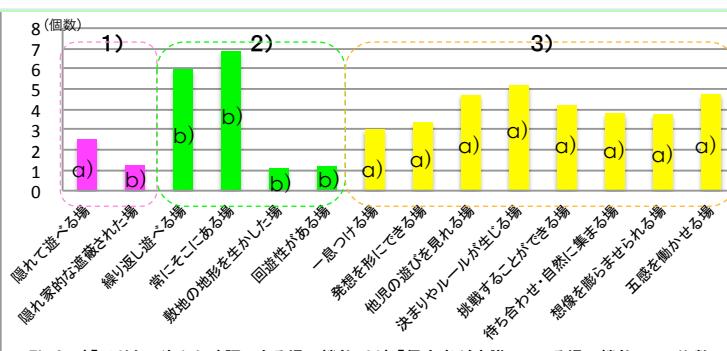


Fig.2 a)「子どもの姿から確認できる場の機能」とb)「保育者が意識している場の機能」の平均数

- 1) 子どもの姿と保育者が意識する遊び場所のズレ
「隠れて遊べる」機能を持つ場所は、子どもたちの遊び姿が見られる遊び場(a)の数よりも保育者が意識する遊び場(b)の数は少ない。
- 2) 配置される遊び場所の機能の多い・少ない
「繰り返し遊べる場」や「常にそこにある場」は保育者が高く意識し、逆に「敷地の地形を生かした場」や「回遊性がある場」の意識は低い傾向にある。
- 3) 保育者の子どもの姿の見取り
子どもたちの遊びに向かう姿から遊び場が持つ多様な機能を保育者は理解している。

<回答例> 調査協力園はこのような回答がみられます

隠れる「複合型遊具」「樹木」「トンネル」「築山・斜面」
遮蔽「小屋」「複合型遊具」「トンネル」「樹木」
繰り返し「砂場」「滑り台」「園庭全体」「鉄棒」
常にそこにある「鉄棒」「砂場」「滑り台」「プランコ」
地形を生かす「築山・斜面」「園庭全体」「雑草・芝生地」
回遊性がある「園庭全体」「開けたスペース」「複合型遊具」
など

一息つける「ベンチ」「小屋」「砂場」「屋外用机」
発想を形にできる「砂場」「園庭全体」「開けたスペース」
他児を見れる「砂場」「複合型遊具」「縁側・デッキ・テラス」
決まりやルール「砂場」「園庭全体」「滑り台」「プランコ」
挑戦「鉄棒」「うんてい」「園庭全体」「のぼり棒」
待ち合わせ「砂場」「園庭全体」「複合型遊具」「小屋」
想像「砂場」「園庭全体」「小屋」「複合型遊具」
五感「砂場」「園庭全体」「菜園」「花壇」「樹木」
など



子どもの姿を見取るだけでなく、「園庭が持つ機能と意図を意識して設定すること」も必要です。

子どもが思い描く遊び場と保育者が意識する遊び場の機能の違いを捉え、どのような経験を子どもがしているのかを考えることが園庭の保育の質につながります。

Step3 園の理念や教育目標から振り返ってみましょう

園庭での子どもの経験として、どのようなことが大切だと思いますか？



大切だと思う順に、それぞれ番号（順位）をつけてみましょう

＜遊びや活動の目的 編＞

- () 自然の美しさや不思議さを感じることができる
 - () 体力や運動技能を育てることができる
 - () 危険を察知したり、危険に対処したりする力が育つ
 - () 疑問に思ったことややってみたいことを試したり表現したりすることができる
 - () 科学的な視点を持ったり、数や文字を意識したりすることができる
 - () その他 _____

＜人との関わり 編＞

- () 子どもだけで遊ぶことができる
 - () 多様な人と関わることができる
 - () 保育者と一緒に遊ぶことができる
 - () 一人だけで遊ぶことができる
 - () 少人数で遊ぶことができる
 - () その他

重視している内容を見つめ直すことは、各園の持つ価値を可視化し、実践を振り返ることにつながります。

いずれも大切な内容ですが、「相対的に重視していること」は園によって異なります。

多くの調査協力園で高順位だった項目

- 自然の美しさや不思議さを感じることができる
 - 疑問に思ったことややってみたいことを試したり表現したりすることができる
 - 子どもだけで遊ぶことができる



Fig.3 「自然の美しさや不思議さを感じ
ことができる」との順位別圓数

多くの調査協力園で低順位だった項目

- 科学的な視点を持ったり、
数や文字を意識したりする
ことができる
 - 一人だけで遊ぶことができる



Fig.4 「科学的な視点を持ったり、数や文字を意識したりすることができること」の順位別割合

調査協力園間での散らばりが大きかった項目：

- 体力や運動技能を育てることができる
 - 危険を察知したり、危険に対処したりする力が育つ
 - 多様な人と関わることができる
 - 保育者と一緒に遊ぶことができる
 - 少人数で遊ぶことができる



Fig.5 「体力や運動能をもつこと」の順位別図数



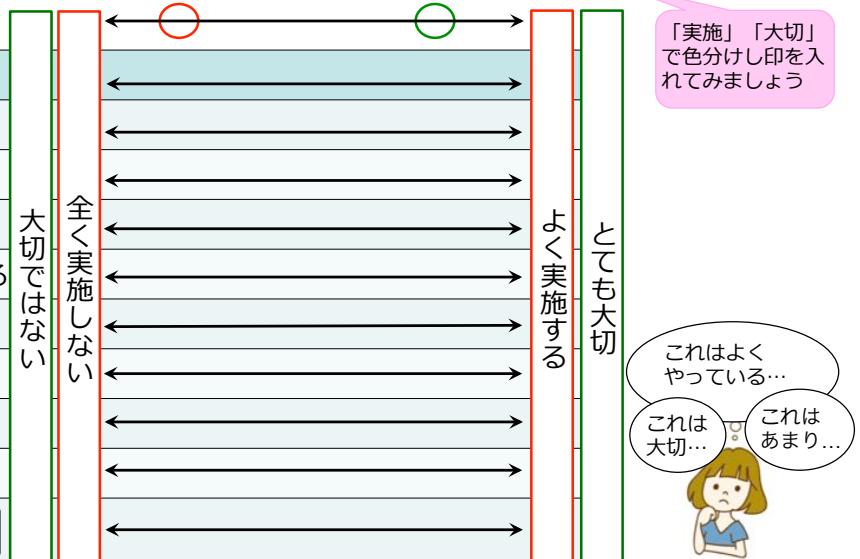
Fig.6 「多様な人と関わることができること」の
順位別図数

具体的な保育実践は、どのようになるでしょうか？



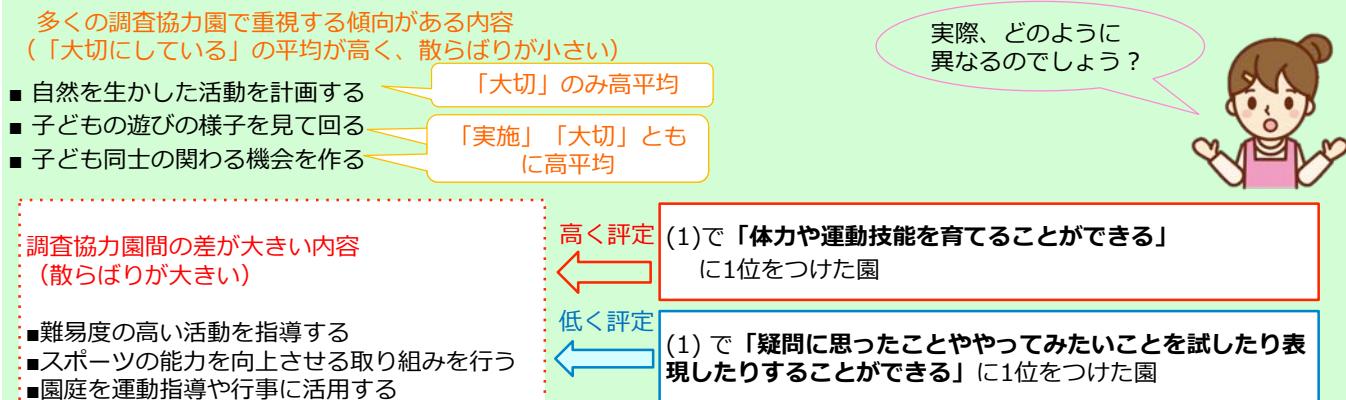
例えば以下の内容について、どのくらい**実施**しており、**大切**だと思っているでしょうか。

子どもの遊びの様子を見て回る
子ども同士の関わる機会を作る
園庭を運動指導や行事に活用する
自然を生かした活動を計画する
子どもの活動環境は保育者が決めて設定する
スポーツの能力を育てる取り組みを行う
保育者が始めた遊びに子どもを誘い込む
子どもに指示を出して活動を進める
難易度の高い活動を指導する
その他



調査協力園の間での違いや共通点については、このような結果が見られました

3



実際、どのように異なるのでしょうか？



「園で大切にしたいこと」「子どもに経験してもらいたいこと」を理念や保育目標と合わせて、振り返ってみましょう。

理念や保育目標を振り返ると、具体的にどのようなことでしょうか？

回答いただいた中から、大切にしていることや目標に関する記述を集めてみました

自然との関わり

本園では「自然を学び、自然に学ぶ」という基本方針のもとに園庭ビオトープの活用を積極的に進めています。ビオトープの整備にあたっては、地域の自然の生きものが訪れるのを待ち、飼育ではなく、自然の生き物が自立してくらす環境づくりをコンセプトに、長期的展望にたって年次的に進めてきました。園庭には「のはら園」と呼んでいる築山があり、バッタやトンボを追い求める子どもの姿が見られます。また、数多くの樹木が植えられ四季折々の花があり、せせらぎにはメダカやエビが泳いでいます。生態系的に安定した環境になるにつれ、身近な遊び空間で季節の移り変わりを体感できるようになっています。



体力・異年齢の関わり

園庭が広いので全園児で遊んでも余裕があり、天気の良い日はできるだけ異年齢の子どもとの関わりを大切に考えている。近隣には公園があり四季折々散歩に出かけている。2015年に完成した複合遊具は子ども達の体力づくりに非常に役立っていると思う。



運動能力・危険から身を守る

子どもは外で遊ぶことが好きだし、運動能力、特に危険に対する身を守る能力をつけさせるのが幼児教育では一番必要なことだと思うので、外の方にお金をかけている。（中略）また、樹木に関心を持ってもらいたい園長の思いでいろいろな木を植えている。「タラヨウ」という樹木は葉の裏に文字が書けるのとてもおもしろい。

異年齢の関わり

全園児が園庭に出て遊ぶ時間には、異年齢同士での遊びが盛んに見られる。また、年少児や年中児が年長児の真似をしたり、年長児が年少児や年中児に遊びを教える姿も見られ、子ども同士が刺激し合って遊び、心身の成長につながっていると感じている。

一人で過ごす環境

園庭は十分なスペースがあるので、思いきり走ったりサッカーをしたりする事が出来る。しかし、樹木が多く日かけスペースがほとんどなかったり、一人で静かにゆったりとする居場所作りも難しい面がある為、今後検討していきたい。

子どもが自由に発想し試みる

園庭は大きな事故を起こすことなく安全に遊べることを前提にしているため、使い方のルールを大人が決めていますが、その中でも子どもが自由に発想して試みることができるような素材をそろえることに取り組んでいます（タイヤや丸太、瓶ケース、お風呂マットを組み合わせ、いろいろな遊び方を考えられる環境作り）。

自然との関わり・地域との関わり

園内外において五感を刺激する保育体験を重視しているため、未満児からでも園庭、園舎外へ出かけることが多い。園内で限りがあるため、年齢が上がるにつれて園舎外での自然体験活動を多くとり入れる。地域との交流も兼ねている（ほたるの里づくり、運動公園、虫とり、芝そり、ターザン…）。

「うちの園らしさ」が見えてきそうです。
現在だけでなく、これから実践したことについても考えてみましょう。

使い方、改善の工夫など
Step 4, 5へ

4 Step4 使い方やルールを振り返ってみましょう

園庭での遊びや活動を広げるために、
使い方やルールをどのように見直すことができるでしょうか？

例えば、それぞれの環境には以下のような使い方やルールが考えられます

水遊び場

<使い方>

- 子どもが必要なときに、水を出せるようにする
- 水と雨とのつながりなど、環境について子どもと話す
- 生き物を観察したり、生態について話したりする
- 水たまりを遊びに活用する

<ルール>

- 水の使用量について子どもが決められる状況を作ったり、子どもと話し合ったりする
- 水たまりなどで自由に遊ぶことができるようになる



その他の場所でも、このような使い方がされています

<使い方>

- 菜園や花壇：収穫物を給食やおやつで食べる、虫などの観察をする、野菜くずや落ち葉で堆肥づくりをして菜園で用いる
- 築山や斜面：ダンボールや板などの素材と合わせる、乗り物と合わせる
- 動物：子どもが世話ををする
- 休憩できるスペース：子どもや保育者、保護者が集まり話せる場面を作る
- 低年齢児向け：乳幼児が同時に出来る場合の活動内容の工夫



土・砂遊び場

<使い方>

- 掘って遊ぶことができる
- 水と合わせて遊べるようにする
- 草花をそばに植える・残す
- 作ったものを置いておく台などを設ける

<ルール>

- 自由に掘ることができるようになる
- 水を使えるようにする
- 他の素材も持ち込めるようになる



樹木、草花

<使い方>

- 落ち葉、雑草、花、実を遊びや表現活動に使用する
- 子どもと一緒に栽培活動などを行う
- 植物の生態などについて話し合う
- 樹木や草花のネームプレート等をつける

<ルール>

- 花や実を摘んでよい量や、実を食べることについて子どもと話し合いルールを決める
- 自由に葉や花や実を取ったり拾ったりできる場を設ける



同じ環境でも使い方やルールが変わると、遊びや活動も変わります。

園庭での使い方やルールは、誰がどのように決めているでしょうか？

調査では、このような傾向が見られました。

ほとんどの項目で「子どもたちと保育者の話し合い」により決める園が多い。

特に ◆子どもたちが作ったものを園庭に置きたいとき
◆子どもたちが試してみたいことをするとき
では7割以上にのぼる。

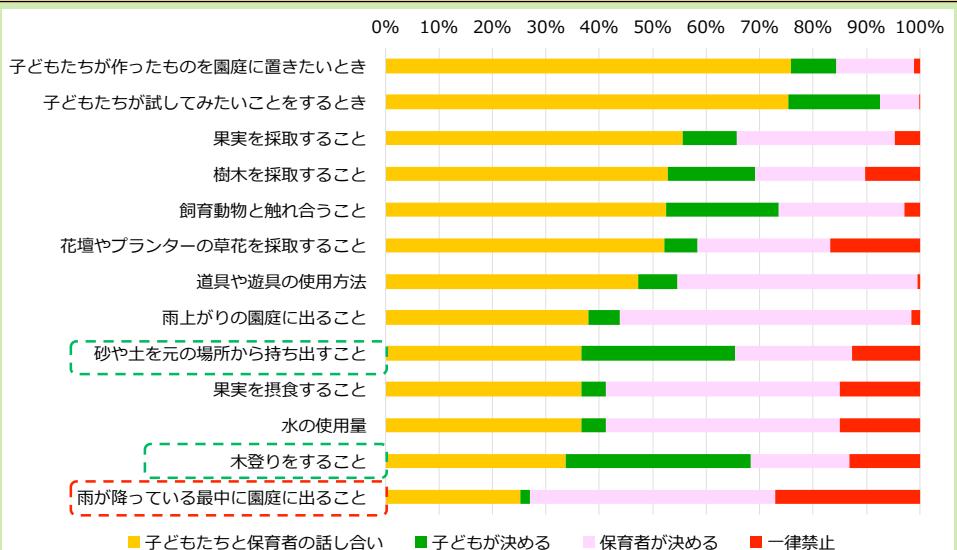


Fig.7 園庭の活動やルールを決める際の決め方（誰が決めるのか）

「子どもが決める」が多い項目

◆木登りをすること
◆砂や土を元の場所から持ち出すこと

「一律禁止」が多い項目
◆雨が降っている最中に園庭に出ること

例えば、以下のようなことは誰が決めるでしょうか？枠内に書き込んでみましょう

4

内容	決める人・決める方法・すでにある決まり（禁止事項）
(記入例)	<ul style="list-style-type: none"> 園全体で禁止している。・子どもが自由に決める。 ・そのつどクラスで話し合いの機会を設ける。 ・保育者が決めて伝える。
●子どもたちが作ったものを園庭に置きたいとき	
●子どもたちが試してみたいことをするとき	
●果実を採取すること	
●果実を摂食すること (食べられる果実がある場合)	
●プランターや花壇の草花を採取すること	
●樹木を採取すること	
●木登りをすること (登れる木がある場合)	
●道具や遊具の使用方法	
●雨上がりの園庭に出ること	
●雨が降っている最中に園庭に出ること	
●砂や土をもとの場所から持ち出すこと	
●水の使用量	
●飼育動物と触れ合うこと (飼育動物がいる場合)	
●その他1 ()	
●その他2 ()	

「子どもが決める」ということについては、このような例があります

調査協力園の記述では、このような工夫が見られました。】

1. 子どもが決める状態

- ◆雨上がりの園庭はいたる所に水たまりができる、どろんこ遊びが自然の雨を使って出来ることは園庭がでこぼこになって後の整地が大変ではあるが、近頃では子どもが考えて雨上がりの園庭を自由に使って楽しそうである。
- ◆砂場に水を入れることは自由など、遊びが広がるようにしている。
- ◆年間を通してポンプや水道を自由に使い、泥んこ、泥団子、水遊びができる。
- ◆現在樹木が多くあり、あえて落ち葉などそのままにし、その時々での楽しみ方をしています。
- ◆花壇には子ども達が自由に花を摘んで遊べるよう、夏は朝顔やおしおい花を一面に植えている。

2. 子どもの感覚や考え

- ◆子どもたちは空間の中で自分たちでルールを決めて遊んでいることが多く、保育者もまぜてもらい、遊びの感覚や考えと一緒に味わっている。

あらかじめ決めていないことについても、どういう決め方の傾向があるか、園の実態とともに振り返ってみましょう



「誰が決めるのか」を振り返ることで、園庭の使い方を改めて見直すことができます。



園の理念や教育目標→ Step 3へ
職員間や地域、保護者との共有→ Step 6, 7へ

Step5 具体的な改善の工夫を考えてみましょう

改善のポイントを3つの視点で見てみましょう



改善のPOINT (園庭内)

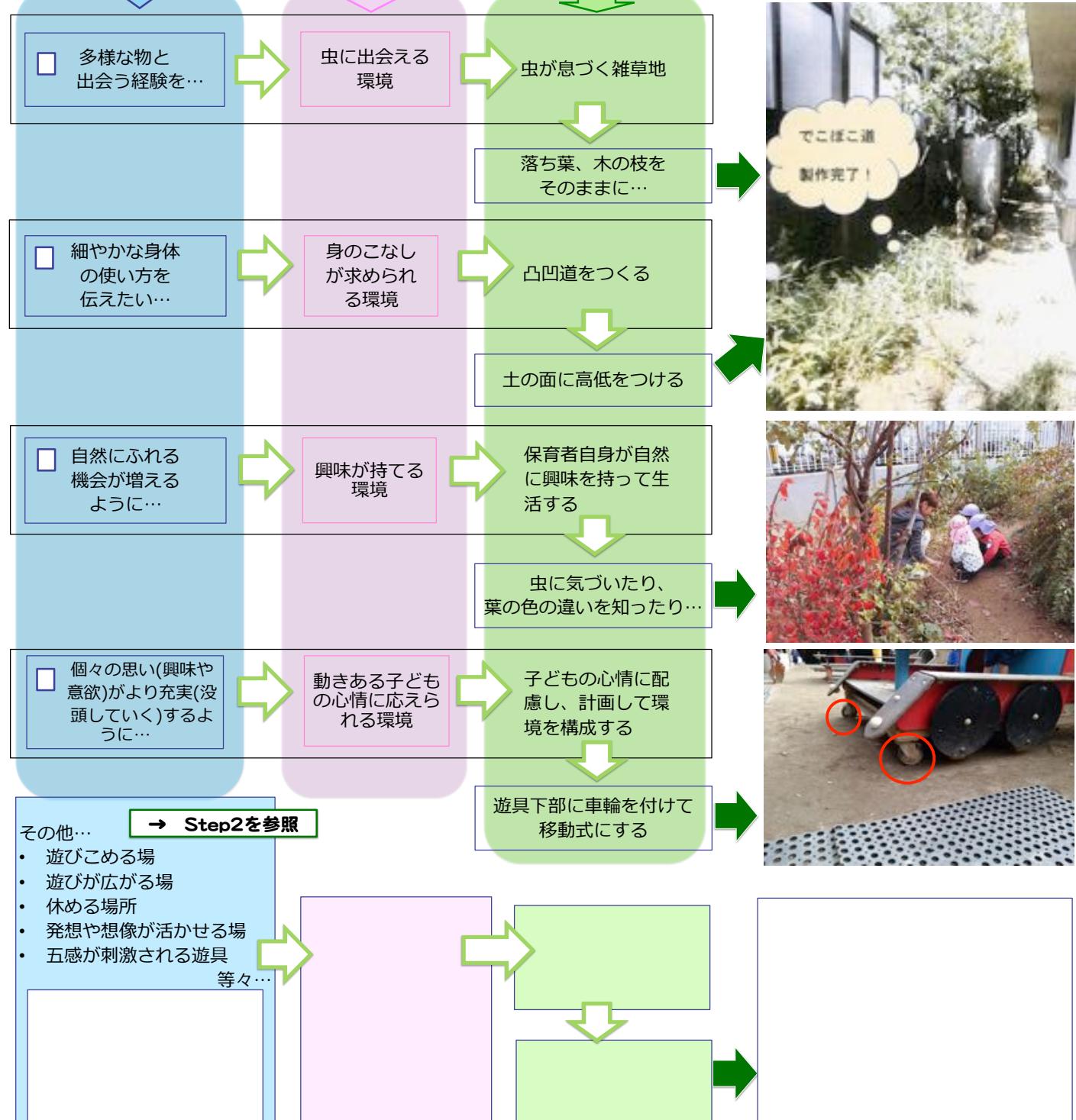
あなたの園の改善案を作成してみましょう。園環境は様々です。改善に向けてのポイントは、それぞれの園の環境を活かしていくことから考えることです。そのうえで、以下のステップで考えてみるのは、いかがでしょうか。③は特に、それぞれの園で異なる取り組みになります。事例を参考に振り返り、満たされている場合には□にチェックを入れましょう。



①あなたの園では子どもたちにどのようなことを経験して欲しいですか？

②そのために必要な場所とはどのような要素を持つ場所でしようか？

③上記を実現させる具体的な環境を考えてみましょう





～園庭は様々な人々が通り、集う場でもあります～

5



改善のPOINT（屋上やテラスなど園庭以外の園空間）

園庭以外の場所も活かしてみましょう。子どもの心情や子どもに経験させたい事をもとに、屋内外の改善に加えて、テラスなどの境界上にある場所についても考えてみましょう。その際、園内外の要素と合わせ、全体的なバランスの中で考えることは重要です。



どこが適した場所だろう…？

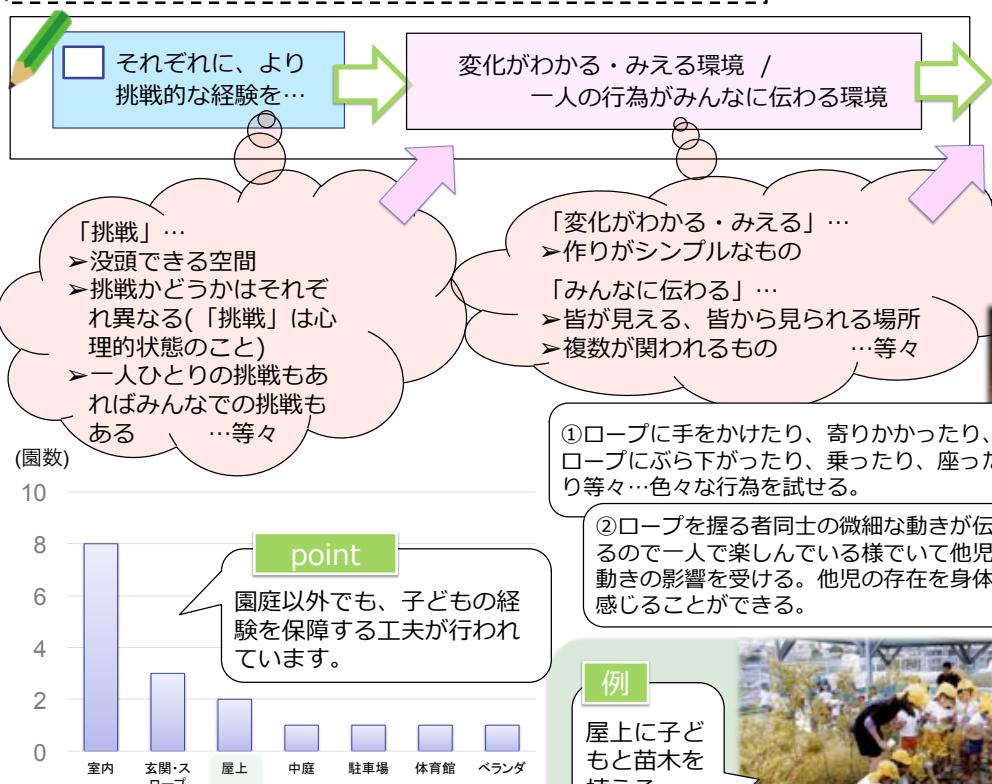


Fig.8 園庭が無い施設で取り組まれた園内改善箇所

地域の中での多様な活動（拡張された園庭）

地域の多様な場所を活かしましょう。そこは子どもたちの心動く様々な刺激にあふれています。色々な世界へのつながりと広がりを期待することができます。

園外における様々な環境刺激に足をとめ、「おみくじ」といった文字と中の人形、電車のスピードや音や振動など、興味深くそれらを体感している。

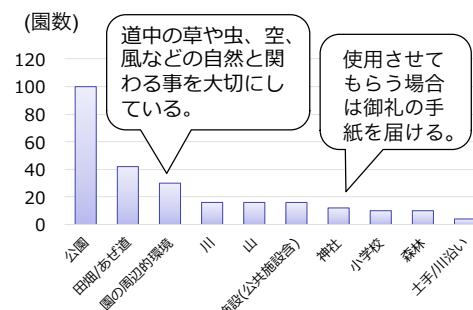
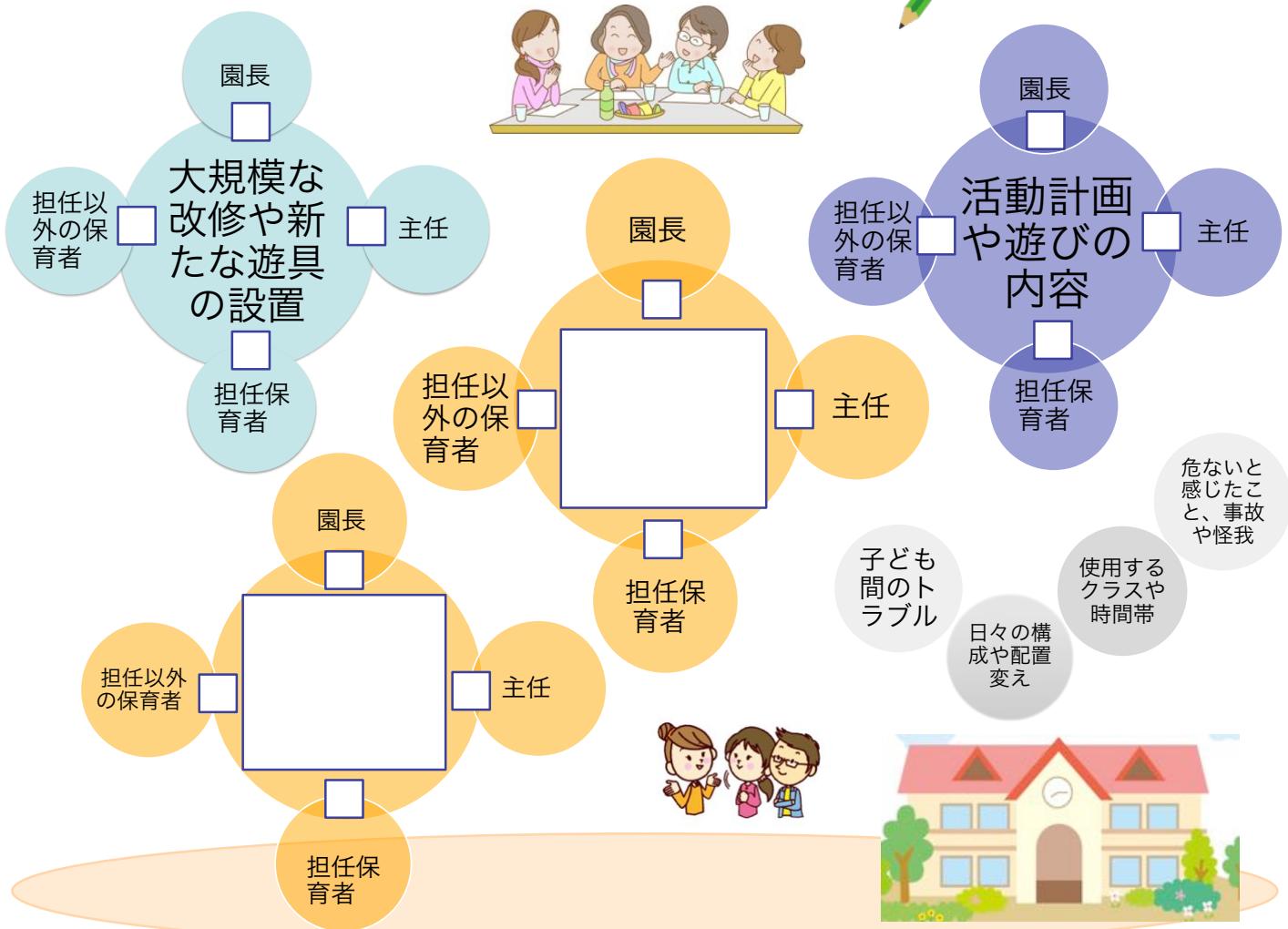


Fig.9 活用されている園外環境の上位10か所

6 Step6 情報共有のあり方を振り返ってみましょう

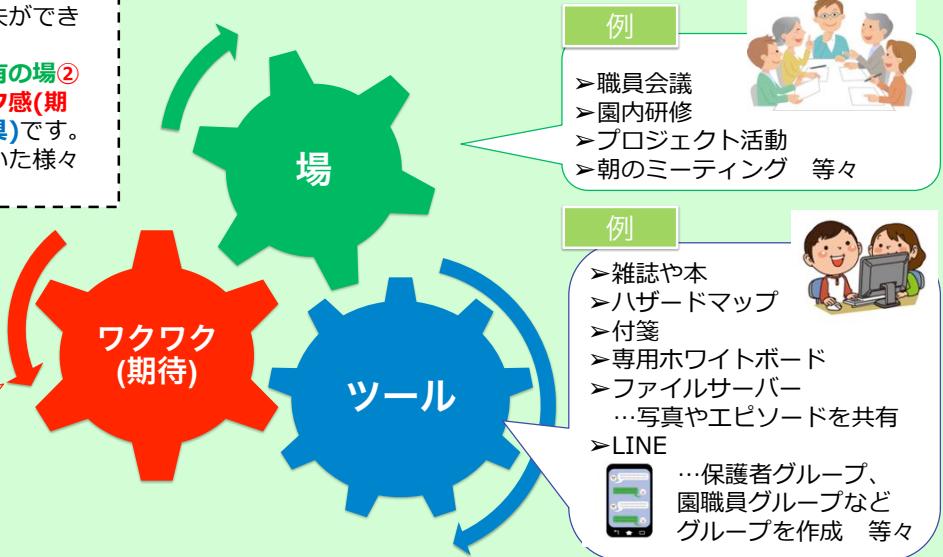
誰と何を共有していますか？

- 以下の項目に関して、共有されている方々の□にチェックを入れてみましょう
- また、それぞれの園で共有すべき情報を確認し、オレンジ色の球体にそれを書き入れて、同じく共有されているメンバーについて確認をしてみましょう



どのように共有していますか？

- 共有化していくために、どのような工夫ができるでしょうか。
- 情報の共有化に必要なことは①情報共有の場②情報を得たり発信したいと思うワクワク感(期待)③情報の共有化を支えるツール(道具)です。
- ここでは今回の調査で提示していただいた様々な実践例をご紹介させていただきます。



役職別情報共有比率と園庭環境との関係

- ▶ 園のどの人たちと何の情報を共有化するかということは、園庭環境の多様性と関係があります。
- ▶ 以下では、役職別にみた園庭情報(園庭の整備と活動計画や遊び)の共有において、園の誰との共有が園庭の多様性とどのように関係したかという調査結果をご紹介します。

園庭の整備(改修や新たな遊具の設置)

N=1740, n=1658

- ▶ 「園長」で最も多く共有化がはかられている。
- ▶ 「担任以外の保育者」との情報共有は6割を下る。

point

園庭整備に関する情報共有がある園の方が園庭環境に多様性がある。特に担任以外の保育者を含めて共有されている園は、園庭環境が多様です。

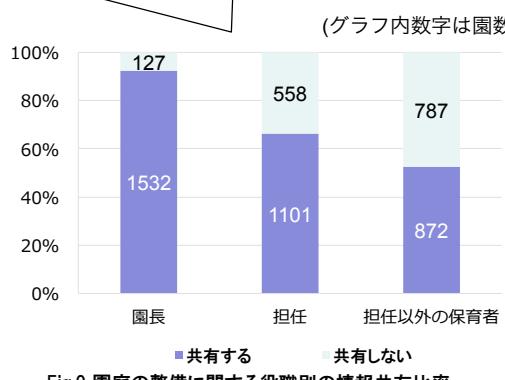
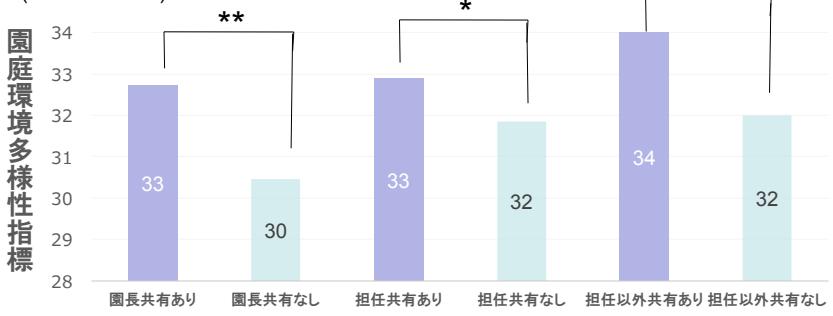


Fig.9 園庭の整備に関する役職別的情報共有比率

(グラフ内数字は園数)



*: P<.05, **: P<.01, ***: P<.001

Fig.10 園庭の整備に関する役職別的情報共有と園庭環境多様性指標との関係

活動計画や遊び

N=1740, n=1658

- ▶ 「担任保育者」で最も多く共有化がはかられている。
- ▶ 「園長」との情報共有は6割を下る。

point

活動計画や遊びに関する共有が、担任以外の保育者も含めて共有されている園は、園庭環境に多様性があります。

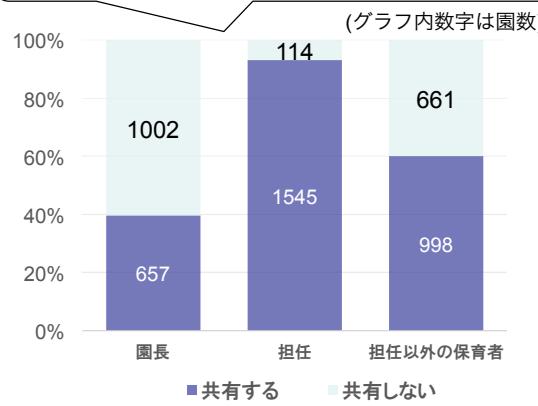
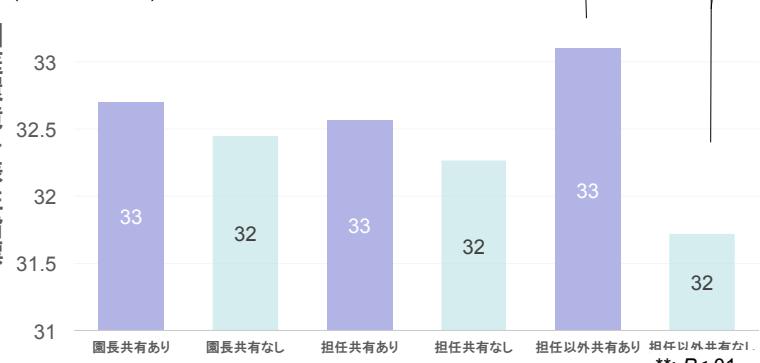


Fig.11 活動計画や遊びに関する役職別的情報共有比率

(グラフ内数字は園数)



**: P<.01

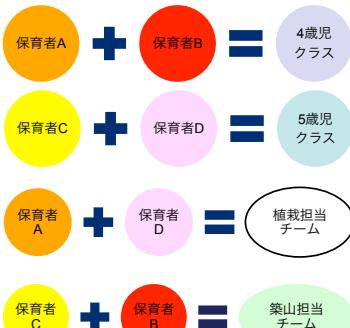
Fig.12 活動計画や遊びに関する役職別的情報共有と園庭環境多様性指標との関係

園庭環境を支援する組織化を...

多様なチーム編成を同時進行させることによって、様々な情報が自ずと結びつくよう工夫する。

例

保育を担当する保育者とは
別にチームを組む



保育者の環境への主体的な関与



場と子どもの姿を基点に
保育を見合う

保護者や地域との
関係の構築

情報共有と業務の効率化 /
長期的評価と柔軟な運営

時間に関する管理 :

ICT環境を整備する
などして、保育現場
における情報共有の
効率化とスピード化
に努める一方で、評
価については行って
長期的な観点でいる。

例

「各クラスにデジタルカ
メラ・パソコンを設置し
すぐに作業できる環境に」

「PC上での情報共有・
時間を限定した会議」

柔軟な運営方針 :園庭における
子どもと保育者の行為を基に組
織を構築し、変化に応じて組
織を解体したり新たな組織を構
築させたりしている。

例

「いくつか固定された行事はあるが、
その他の行事は子どもの育ちを基に
して毎年柔軟に設定する」

7 Step7 保護者や地域の方との関わりを考えてみましょう

園庭や園外で、保護者や地域の方とどのように関わっているでしょうか？

調査協力園では、保護者や地域の方との関わりについてこのような工夫をしています

<関わりの場所を作る>

◆ 日常に自然と集まる場所

- …砂場に木製のテーブルとイスが置いてあり、子どもも保護者も会話ができる場
- …園庭内の小さなログハウスを、保護者との意見交換時にも利用している
- …園庭にデッキを設置し、子どもたちや保育者また保護者などが集まり話などできる場面を作っている

ハード



◆ 集いやイベントに使用できる場所

- …日曜日に無償で保護者や地域の方に園庭を開放し、バーベキュー等にも使われる/在園児だけでなく地域の方に園庭を開放する時間を設けている
- …地域との触れ合いのため保護者主催のフリーマーケット会場として提供

あなたの園庭で、人々が集える場所はどこでしょうか？

保護者や地域の方に、どのような方法で伝えますか？

<園庭の情報を共有する>

ソフト

◆ 日常的な共有の習慣

- …遊具が増えたこと、子どもの場面で感動したものなどをブログにアップ
- …写真を中心とした園庭あそびだよりを保護者に向けて発行

◆ 伝える機会を設ける

- …園庭マップを作成し、わかりやすく知らせて親しみをもつていただいた

◆ あらかじめ共有

- …汚れること、多少のケガに対しては保護者も了解しているので遊びのび遊びで遊んでいる

保護者へのお手紙より…

<入園前>

- …砂場遊び、築山登り、木登り、水遊び、遊具で真っ黒になって毎日遊びます。（中略）当然、洗濯の回数も増えると思います。ケガもします。（以下略）

<新しい遊具の説明>

- 「自分の力で、徐々にできるようになる」ことをめざす遊具ですので、降園時や休日の使用の際も、大人が身体を持ち上げなどの手助けをしないでください。（以下略）

<関わりや参加の機会を作る>

◆ 保護者や地域の方と一緒に作った環境

- …保護者会と協力して小屋づくり
- …子ども、保護者、保育者で掘り、草も植えたビオトープ
- …設置作業を保護者会に呼びかけて行った、砂場の日よけ
- …地域の方や保護者の協力による花壇
- …改修工事の際、保護者に手伝ってもらい進めている築山作りや三輪車置場

ハード

×

ソフト

◆ 恒例行事や習慣としての保護者参加

- …毎年保護者会に協力してもらって実施する砂場の砂の入れ替え、消毒、築山の補修
- …年1回実施する、都立公園を活用した園外保育（保護者の一部が参画）
- …保護者や近隣の方に応援や安全を確保して頂きながら実施する園外マラソン
- …保護者と子どもが参加する近隣公園、周辺道路等の一斉清掃
- …年に1度おやじの会（父親）と子ども、保育者がおこなう園庭の整備（花壇を作ったり小石を拾ったり）
 - 皆で遊びの環境を見て子どもと共に皆で整備する事で保護者と共に安全を確認
- …地域協力者の指導、保護者のボランティアと共に、園の前の花壇の苗うえや夏の土日の水まき、花とり

あなたの園では、どのような関わりや参加の機会がありますか？

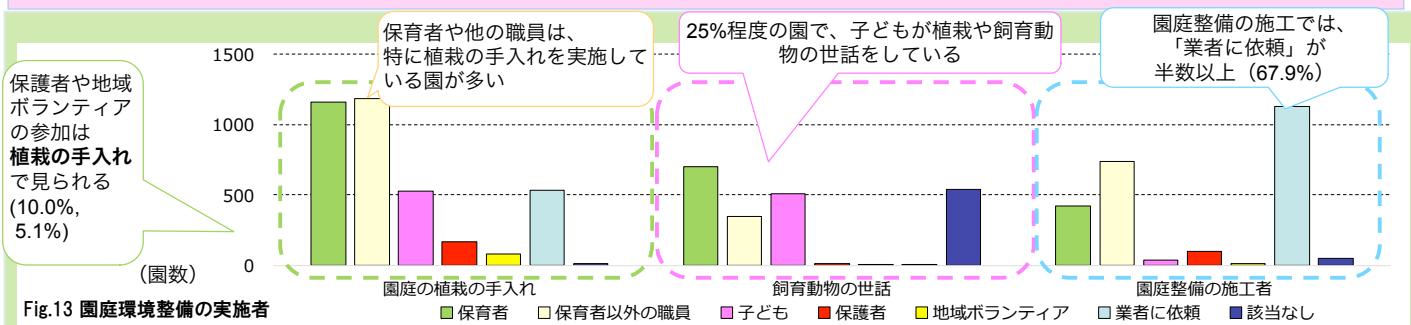
あるいは、新たに作りたいですか？

ハード・ソフト両面で、保護者や地域の方と様々な取り組みがなされています。

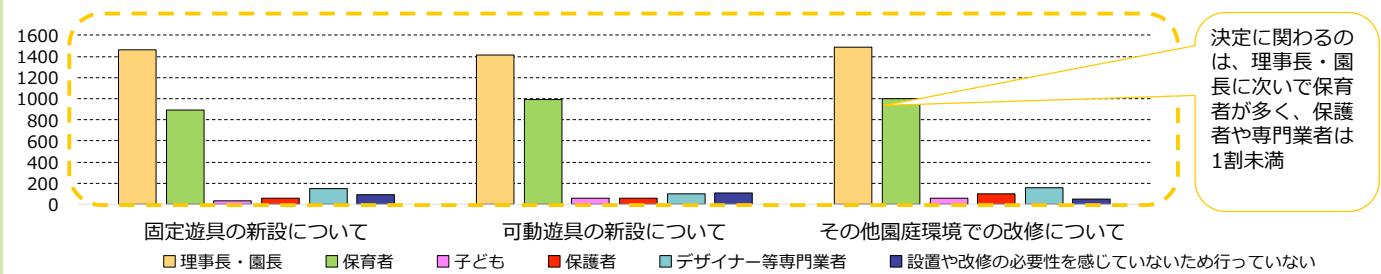
保護者や地域との関わりについての集計結果を見てみましょう

7

園庭の環境整備は、誰が実施しているのでしょうか？



園庭の遊具設置や改修に関する決定には、誰が関わっているのでしょうか？



園庭の改修や決定過程に保護者や地域の方が関わる園は、少ない現状にあります。

保護者や地域の方はどのようなきっかけで参加されているのでしょうか？

きっかけや変化の過程について、詳しく話を聞いてみました

不安を楽しみに

〈保護者の不安を予測し、遊びの楽しさを事前に共有〉
(認定こども園七松幼稚園)

(この巨大遊具の一部である)砂場については保護者のご協力を得てつくっています。この巨大遊具、たぶん、すごく不安になられるのが分かっていたので、一緒に、遊具を作る活動を取り入れました。(中略)10トン以下の砂を目の前で土山のように置いていて、一緒に砂を(土山から砂場まで)ガサガサって、保護者と一緒に入れるという作業をしました。夏の暑い時ですが(手伝って下さる人は来て頂けませんかという手紙を)7月に出しました。(中略)もう築山ができていたので、(砂場の完成後)少し遊んでもらいました。楽しそうな姿ですね、(その時に)上手に使っていきますので、よろしくお願いしますと伝えました。



人数

〈少人数から少しづつ〉(明徳土氣保育園)

(最初は8人のお父さんたちで、朝から夕方までかかった)やっぱりお父さんたちの参加が少しづつ増えています。何か口コミだったり、よかったですとか。あとは写真をこう、つくりましたという写真をこっちも掲示したりするので、それを見て、そういうのがあるんだと。やっぱり写真があるとイメージが分かりやすいので、だんだんと増えていくって、20人になり、30人になり、今年は50人弱。もう3分の1ですね。(中略)これぐらいいいれば、もっといろいろなことができるよねというので、じゃあプールとステージと、畑を耕すのと、椅子・テーブルのペンキ塗りと、蜜ろう塗りと、あとは小屋の屋根の掃除とか、いろいろと。(中略)そうやってどんどん増えていくって、いまに至るという感じで。



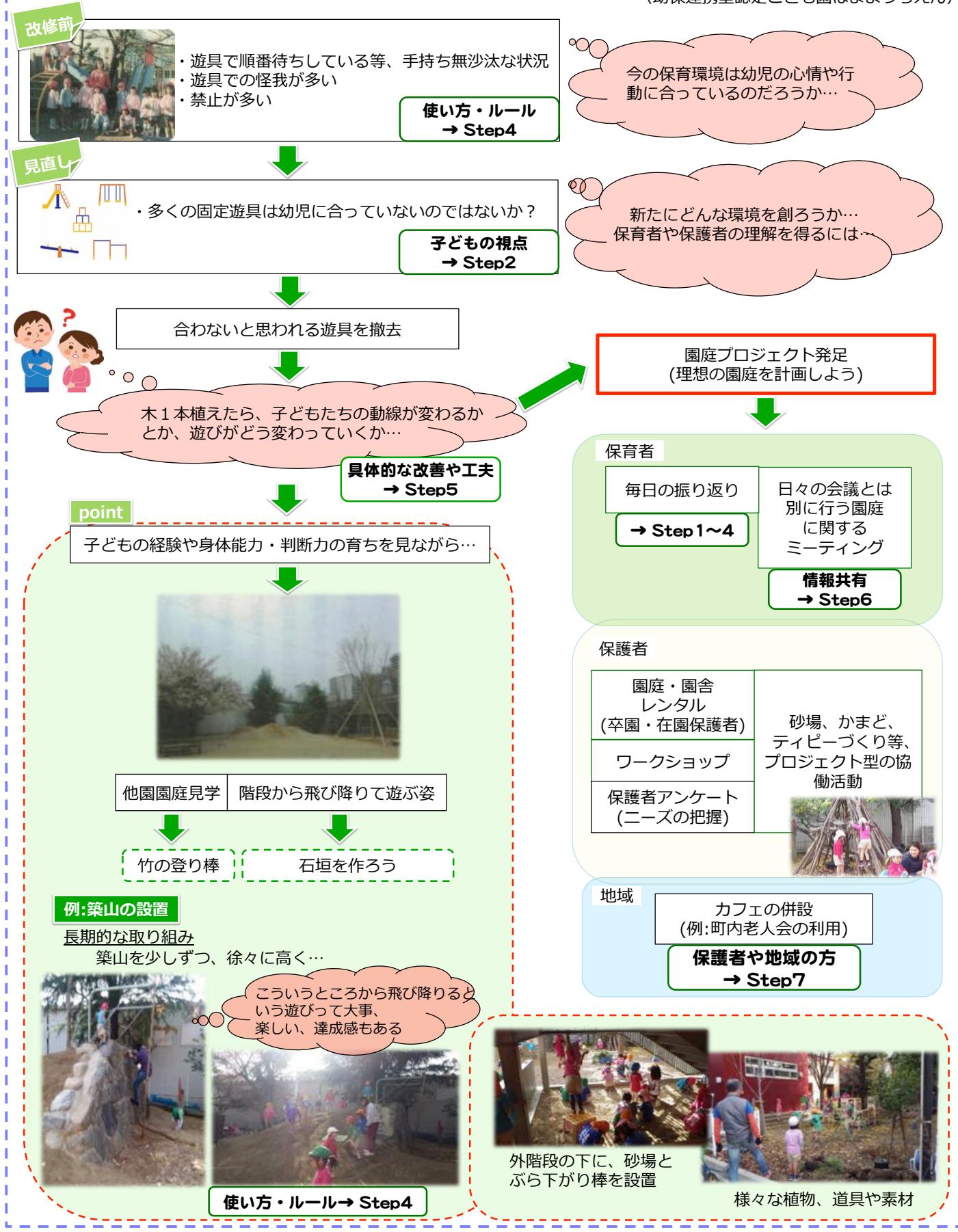
協働へ向けて

〈伝える機会を大切に〉(武蔵野東第二幼稚園)

- ・園児が「発表会」をするのと同様に、先生達も年度末に保護者を招いて「先生たちも発表会」を開催。年度で取り組んだ教育重点の内容をまとめてプレゼンしている。(中略)その内容はポスター大にもまとめ、常設掲示している。
- ・大きな行事の前には保護者会を設け、行事に向かって、園が願っていることや、何がどう成長するのか、具体的な姿から説明し、幼児教育への理解を深めさせていただいている。

<Column> ある園の事例から：園庭環境を変えていく過程

(幼保連携型認定こども園はまようちえん)



7つのステップは、どこから初めても各ステップにつながっていきます。
実態や目的に応じ、ご活用いただければ幸いです。

<写真掲載園一覧>

北海道：幼保連携型認定こども園発寒にこりん認定こども園、認定こども園函館ちとせ幼稚園
秋田県：幼保連携型認定こども園にいだこども園
宮城県：第一光の子保育園
千葉県：めばえの森、杉の子こども園、明徳土氣保育園
東京都：大森みのり幼稚園、彰栄幼稚園、葛飾二葉幼稚園、同仁美登里幼稚園、池袋第二保育園
小学館アカデミー昌平保育園
神奈川県：港北幼稚園、認定こども園ゆうゆうのもり保育園、渕野辺ひばり幼稚園
認定こども園搜真幼稚園、幼保連携型認定こども園田園調布学園大学みらいこども園
山梨県：押原こども園、光の森こども園
新潟県：認定こども園藤見幼稚園
富山県：大沢野ちゅうおうこども園
石川県：幼保連携型認定こども園かもめこども園
滋賀県：レイモンド瀬田こども園
大阪府：ながいけ認定こども園、おおわだ保育園、庄内こどもの杜幼稚園
泉北園、幼保連携型認定こども園とみなみこども園
兵庫県：認定こども園いぶき幼稚園、幼保連携型認定こども園はまようちえん、認定こども園七松幼稚園
島根県：認定こども園光幼保園
宮崎県：認定こども園日向ないろ保育園、あがた幼稚園
熊本県：幼保連携型認定こども園ルーテル学院幼稚園
鹿児島県：認定こども園錦ヶ丘幼稚園、認定こども園吉田南幼稚園、認定こども園伊敷幼稚園

**写真掲載園をはじめ、本調査にご協力いただきました園の方々に
心より感謝御礼申し上げます。**

<園庭に関する実践のご紹介、情報提供をお願いいたします>

ここまでご紹介した7つのステップは、聞き取り調査および質問紙調査をもとに分析を行い、まとめたものです。引き続き、園庭における実践の質を高める方法を皆さまと考えていくために、園の実践をご紹介いただければ幸いです。

メールアドレス：entei.asobi2016@gmail.com

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター
園庭調査研究グループ

参考文献：

- Akita, K., Miyamoto, Y., Tsujitani, M., Sugimoto, T., & Miyata, M. (2017) 'How Do Preschool Children and Teachers Recognize Their Playgrounds?' Oral Presentation at Early Start Conference 2017. Wollongong, Australia.
- 秋田喜代美, 辻谷真知子, 石田佳織, 宮田まり子, 宮本雄太 (2018) 園庭環境の調査検討－園庭研究の動向と園庭環境の多様性の検討－, 東京大学大学院教育学研究科紀要, 第57巻, 印刷中
- 石田佳織, 辻谷真知子, 宮田まり子 (2017) 園庭の実態と実践(1), 日本保育学会第70回大会 口頭発表
- 石田佳織, 秋田喜代美, 辻谷真知子, 杉本貴代, 宮田まり子, 宮本雄太 (2017) 園庭の実態と実践(4)～改修のきっかけと維持の主体者～, こども環境学会2017 ポスター発表
- 石田佳織, 辻谷真知子, 宮田まり子, 宮本雄太 (2017) 園庭の実態と実践(6)～工夫点記述から見える 園庭情報の共有～, 日本乳幼児教育学会第27回大会 口頭発表
- Tsujitani, M., Akita, K., Miyata, M., Sugimoto, T., & Miyamoto, Y. (2016) 'Early-Childhood Children's Value of Play.' Oral Presentation at the 26th European Early Childhood Education Research Association. Dublin, Ireland.
- 辻谷真知子, 石田佳織, 宮田まり子 (2017) 園庭の実態と実践(2), 日本保育学会第70回大会 口頭発表
- 辻谷真知子, 石田佳織, 秋田喜代美, 杉本貴代, 宮田まり子, 宮本雄太 (2017) 園庭の実態と実践(3)～危険についての語りに着目して～, こども環境学会2017 ポスター発表
- 辻谷真知子, 石田佳織, 宮本雄太 (2017) 園庭の実態と実践(7)～保育者間の情報共有と機会や頻度に着目して～, 日本乳幼児教育学会第27回大会 口頭発表
- 辻谷真知子, 秋田喜代美, 杉本貴代, 石田佳織, 宮田まり子, 宮本雄太 (2017) 保育施設における園庭の実践と価値観の検討, 日本教育心理学会第59回総会 ポスター発表
- 宮田まり子, 秋田喜代美, 辻谷真知子, 宮本雄太 (2017) 園庭の実態と実践(5)－園の組織化に着目して－, 国際幼児教育学会第38回大会 口頭発表
- 宮本雄太, 秋田喜代美, 辻谷真知子, 宮田まり子 (2016) 『幼児の遊び場の認識：幼児による写真投影法を用いて』 (乳幼児教育学研究第25号, 9-21)
- 宮本雄太, 秋田喜代美, 杉本貴代, 辻谷真知子, 宮田まり子 (2017) 『保育者が捉える幼児の遊び場の認識』 (国際幼児教育研究第24号, 59-72)
- Miyamoto, Y., Sugimoto, T., Akita, K., Tsujitani, M., & Miyata, M. (2017) 'How Do Preschool Children Recognise Their Playgrounds?' Oral Presentation at the 27th European Early Childhood Education Research Association. Bologna, Italy.

子どもの経験をより豊かに
—園庭の質向上のためのひと工夫へのいざない

2018年1月 初版
2018年3月 二版

制作・発行 東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター
園庭調査研究グループ
代表研究者：秋田喜代美

印刷 よしみ工産株式会社